

続ける都城市一萬城町、秋山利明(72)、京子(66)さん夫婦に社会奉仕賞を贈った写真。

秋山さんは上長飯小の通学路となっている自宅近くの五差路に14年前から立ち、登校する児童・生徒の安全確保と交通安全指導、あいさつ運動に取り組んできた。京子さんも3年前から手伝っている。



また、7年前からは青色回転灯をつけた防犯パトロール車で周辺の地区を含めて見回っている。

表彰式はメインホテルであり、木協会長が「地域に多大な貢献をしている」とたたえ、表彰状を贈呈。秋山さんは「子どもの元気な姿からパワーをもらっている。子どもは私たちに託して掛け替えのない宝物」と述べた。

見守り活動 継続に感謝

◆ 都城ロータリークラブ(木協義紹会長、51人)は21日、児童の見守り活動などを長年

卒業の季節を迎えた。学びやを巣立つ子どもたちには、多くの人々の愛情によって節目の日が迎えられることを忘れないでほしい。都城市一萬城町の秋山利明さん(72)は長年にわたって毎朝、交差点に立ち、登校する児童・生徒を見守ってきた。ある朝、一人の女子高校生の表情が暗いことに気付いて声を掛けた。原

べぶん舌

因はいじめだった。秋山さんはすぐに学校へ連絡。学校も迅速に対応し、その子は笑顔を取り戻した。毎朝立ち続けたからこそ分かった表情の変化。そして、無償の愛が引き出した子どものSOS。秋山さんは「子どもは掛け替えのない宝物」と語るが、秋山さんのような人々は「地域の宝物」だと感謝したい。(祐)